

カスタム機能説明書

リアルタイムデータ（CSV ファイル）

（Nomoad Version 3.2 カスタム版）

このカスタム機能は、NomoadPR でのプレゼンテーションまたは Nomoad でプレビューを行っているときに、パソコン上のローカルディスクや、共有フォルダ、または Web サーバー上にある CSV ファイルの更新を定期的にチェックし、更新された CSV ファイルの内容をリアルタイムに表示に反映する機能です。

応用例

- ・ Microsoft® Excel® 等の表計算ソフトを使用して文字情報をリアルタイム表示。
- ・ 外部のプログラムを利用して現在の発電量などの複数の文字情報を更新。

注意

- ・ Web 上のファイルを指定する場合、サーバーへの負荷を下げるために更新インターバル時間を 60 秒以上に設定してください。また、サイズの大きなファイルを指定しないでください。

目次

CSV ファイルについて.....	2
データタグについて.....	4
テロップ・一行文・文書部品でデータタグを使用する.....	6
表示条件の設定でデータタグを使用する.....	7
リアルタイムデータファイルの登録を行う.....	8
リアルタイムデータ表示更新の設定.....	10
リアルタイムデータ読み込みログの表示.....	12

CSV ファイルについて

リアルタイムデータ（CSV ファイル）機能で利用できる CSV ファイルは下のようなデータです。

- ・コンマ「,」区切り
- ・テキスト区切り記号は「"」（2 重引用符）
- ・文字エンコードが SHIFT-JIS（Windows-932）か UTF-8 のテキストデータ（SHIFT-JIS を推奨）

表計算ソフトでの編集の例

	A	B	C
1	データリスト		
2			
3	場所1	会議室1	
4	時間1	9:00～10:00	
5	内容1	イベント 会議	
6	表示可否	SHOW	
7			
8	場所2	会議室3	
9	時間2	12:00～13:00	
10	内容2	協議会	
11	表示可否	HIDE	
12			

さらに、テキストエディタでファイルを編集する場合は、下記のような注意が必要です。

- ・フィールド内で「,」を使用したいときは、フィールドを「"」で囲む。
- ・フィールド内で改行を行いたい場合は、フィールドを「"」で囲む。
- ・フィールド内で「"」を使用したいときは、フィールドを「"」囲み、2つ連続した「"」を配置する。

リアルタイムデータ（CSV ファイル）更新時の注意

- ・編集した CSV ファイルを保存する際、ファイルを保存する間隔を数秒以上あげてください。変更内容が表示に反映されない場合があります。
- ・編集した CSV ファイルを保存する際、稀に保存に失敗することがあります。その場合は時間を置いて再度保存をリトライしてください。

Web上にファイルを置く場合の注意

- ・ Web上にCSVファイルを置く場合、不完全なデータの読み込みを防止するために、MD5ハッシュファイルを置き、CSVファイルの更新のたびにMD5ハッシュファイルを更新することをお勧めします。MD5ハッシュファイルは「XXXX.csv.md5.txt」という名前（XXXX.csvは対象のCSVファイル名）をつけ、更新後のCSVファイルのMD5ハッシュ（16進数32桁）をASCII形式のテキストで記述し、CSVファイルと同じ場所に保存します。MD5ハッシュファイルは置くだけで機能しますので、使用しないときは削除してください。
- ・ FTPソフト等を用いてCSVファイルをアップロードする場合、バイナリーモードでアップロードしてください。アスキーモードでアップロードした場合、アップロードしたCSVファイルが変化してしまう場合があります。

外部プログラムの作成者の方へ

- ・ ローカルディスクやネットワークの共有フォルダへファイルを保存したり更新するときは、不完全なデータの読み込みを防止するために、ファイル共有モードを排他指定（*FileShare.None*または、*dwShareMode:0*）でファイルをオープンし、保存してください。

データタグについて

リアルタイムデータ（CSV ファイル）機能では、CSV ファイル内のデータの位置を示すために下のいずれかのデータタグを使用します。タグの記述場所は P6「テロップ・一行文・文書部品でデータタグを使用する」や P7「表示条件の設定でデータタグを使用する」を参照してください。

＜%EX_CSV, “リアルタイムデータIDまたはCSVファイルパス”, 列番号, 行番号＞

①

②

③

④

＜%EX_CSV, “CSVファイルパス”, 列番号, 行番号, 文字エンコード, “Web認証識別ID”, 更新優先度＞

⑤

⑥

⑦

①データタグのヘッダー

CSV ファイルを使用するための記述です。

②CSV ファイルとして登録されたリアルタイムデータIDまたはCSV ファイルのパス

CSV ファイルとして登録されたリアルタイムデータID（P8を参照）またはCSV ファイルのパスを記述します。CSV ファイルのパスを記述する場合、記述できるCSV ファイルのパスは、ローカルファイルや共有フォルダ上のファイルの絶対パス、相対パス、Web 上のファイルのURL です。

例： “*c_test”（CSV ファイルとして登録されたリアルタイムデータID）

例： “D:¥Test.csv”（ローカルフォルダの絶対パス）

例： “¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv”（共有フォルダの絶対パス）

例： “folder¥Test.csv” または “.¥folder¥Test.csv” または
“folder/Test.csv” または “./folder/Test.csv”（相対パス）

例： “https://www.example.com/folder/Test.csv”（URL）

相対パスは、

（１）表示パソコンで NomoadPR で表示しているときはプレゼンテーションファイルからのパス

（２）編集パソコンで Nomoad を使用してプレビューするときはプロジェクトファイルからのパスが基準となります。

③列番号

CSV ファイル内のデータの位置を示す列番号です。1 から始まる数値です。

④行番号

CSV ファイル内のデータの位置を示す行番号です。1 から始まる数値です。

⑤文字エンコード

②で CSV ファイルパスを指定した場合、CSV ファイルを読み込むときの文字エンコードの種類を記述できます。

“**SHIFT_JIS**” (SHIFT-JIS) または “**UTF8**” (UTF-8)

記述しない場合は、SHIFT-JIS として読み込まれます。

正しい指定を行わないと正しく読み込めず文字化けが発生します。

また、他タグにて同一のファイルで異なる指定を行った場合、SHIFT-JIS として読み込まれます。

⑥Web 認証識別 ID

②で Web 上の URL を指定した場合、CSV ファイルをダウンロードするときの認証 ID を記述します。認証 ID の設定は、Nomoad、NomoadPR でパソコンごとに別途行います。【P11】を参照してください。

記述しない場合は、認証を行いません。

また、他タグにて同一のファイルで異なる指定を行った場合、認証を行いません。

⑦更新優先度

②で CSV ファイルパスを指定した場合、表示の更新優先度を記述できます。“1” (通常) または “2” (優先) を指定できます。

記述しない場合は、更新優先度は “1” (通常) として動作します。

タグの記述例 1 : `<%EX_CSV, “*c_test”, 3, 5>`

リアルタイムデータ ID “*c_test” として登録された CSV ファイルの 3 列目、5 行目のデータを指定しています。

タグの記述例 2 : `<%EX_CSV, “¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv”, 3, 5>`

共有フォルダ上のファイル「¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv」の 3 列目、5 行目のデータを指定しています。

タグの記述例 3 : `<%EX_CSV, “¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv”, 3, 5, UTF8, “”, “2”>`

共有フォルダ上のファイル「¥¥ServerPC¥Share¥Test.csv」の 3 列目、5 行目のデータを指定しています。また、ファイルを読み込むときのエンコードを UTF8 に指定しています。更新優先度は “2” (優先) を指定しています。

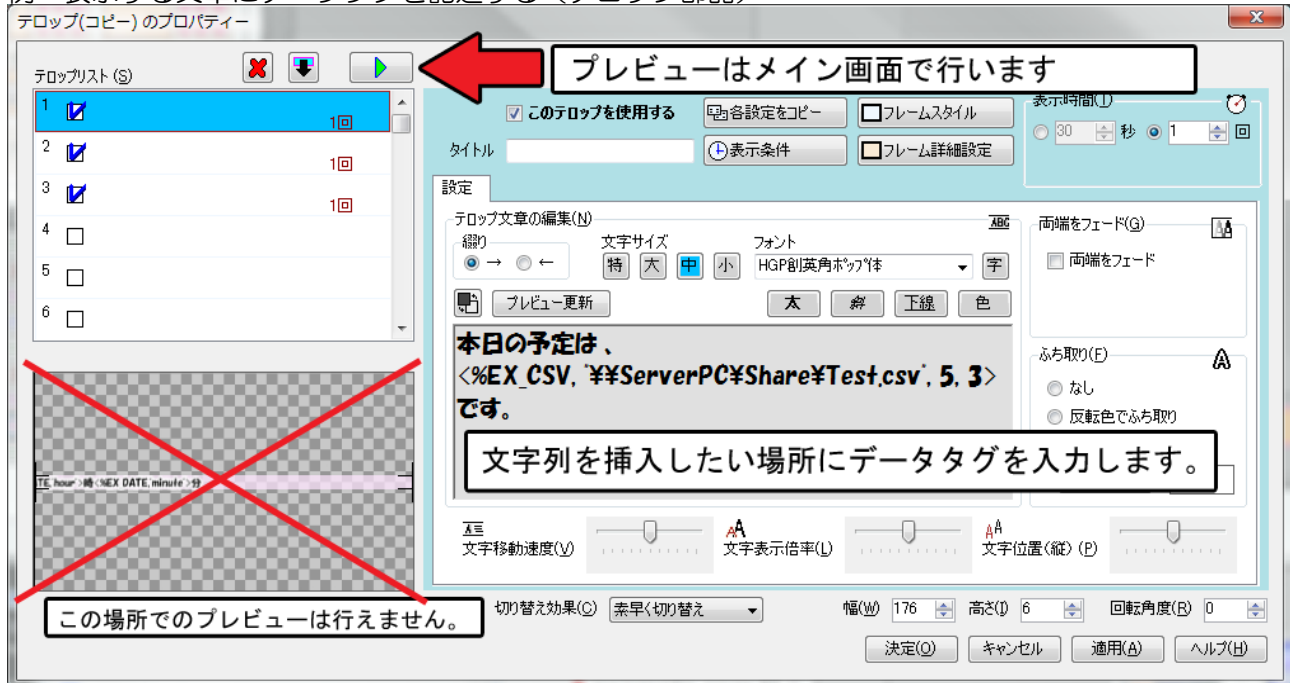
タグの記述例 4 : `<%EX_CSV, “http://www.example.com/Test.csv”, 3, 5, “Web01”, “”>`

Web 上のファイル「http://www.example.com/Test.csv」の 3 列目、5 行目のデータを指定しています。また、ファイルを読み込むときのエンコードは指定なし (SHIFT_JIS)、Web 認証識別 ID は、“Web01” を指定しています。

テロップ・一行文・文書部品でデータタグを使用する

CSV ファイル内のデータをリアルタイムに表示に反映するプレゼンテーションを作成するには、テロップ部品や一行文部品、文章部品のプロパティ画面でデータタグを記述します。

例：表示する文章にデータタグを記述する（テロップ部品）



文章内のリアルタイム表示したい文字列のフォント・文字サイズ・スタイル・色・文字コードを変更するには、データタグ全体を選択して変更します。データタグの「<」から「>」までの全ての部分を同じ設定にする必要があります。

また、文章内でデータタグを使用している場合、文章で使用するフォントがプレゼンテーションを行う表示用パソコンにインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、他のフォントで表示されます。

注意：

データタグを入力した場合、各部品の機能が制限される場合があります。

（一行文部品）

- ・プロパティウィンドウの「枠のサイズを文にあわせる」の設定は無効になります。

（文章部品）

- ・プロパティウィンドウの「文書レイアウト設定」内の「枠のサイズを文章にあわせる」の設定は無効になります。

表示条件の設定でデータタグを使用する

表示条件の設定ウィンドウにデータタグを記述することで、部品の各項目や連動表示項目での表示可否の設定を、CSV ファイルからリアルタイムに変更できます。

表示条件の設定

☒ 表示条件を指定する(E)

時間帯1(1)

0 時 0 分 から
0 時 0 分

の間は表示する

時間帯2(2)

☐ 指定する

0 時 0 分 から
0 時 0 分

の間は ☒ 表示する ☐ 表示しない

時間帯3(3)

☐ 指定する

0 時 0 分 から
0 時 0 分

の間は ☒ 表示する ☐ 表示しない

時間帯4(4)

☐ 指定する

0 時 0 分 から
0 時 0 分

の間は ☒ 表示する ☐ 表示しない

リアルタイムデータタグ(B)

<%EX_CSV, "%ServerPC%Share%Test.csv", 5, 4>

閉じる

データタグを入力します。

No.2
No.3
No.4
No.5
No.6
No.7
No.8
No.9
No.10
No.11
No.12
No.13
No.14
No.15
No.16
No.17
No.18
No.19
No.20


0 15:00 18:00 21:00 0:00

CSV ファイルに下の 3 種類のデータを記述することで表示可否を指定します。

“SHOW” …表示を許可する

“HIDE” …表示を許可しない

“NONE” またはその他の文字列 …表示条件の設定画面で指定した時間帯を使用する

※設定された表示可否を Nomoad でのプレビューで確認したい場合は、 「プレビュー条件の設定」画面で、「部品プロパティーで設定した表示条件をプレビュー時に適用する」を選択してプレビューを行います。

リアルタイムデータファイルの登録を行う

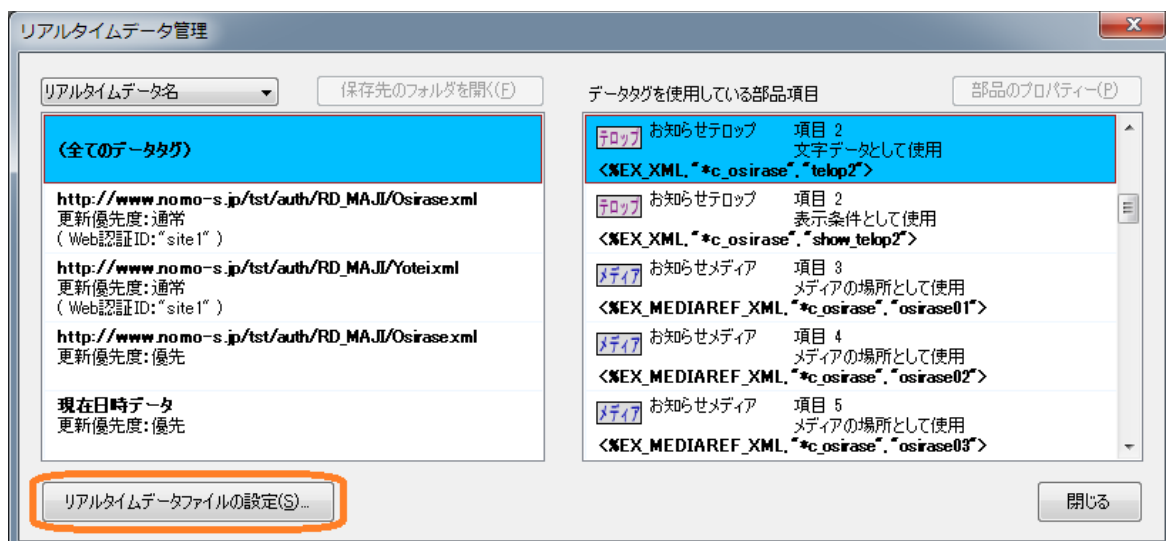
CSV ファイルをリアルタイムデータとして登録し、リアルタイムデータ ID 作成することにより、データタグの記述を単純化することができます。

各部品で記述するデータタグに、リアルタイムデータ ID を使用することによってデータタグの管理が楽になります。リアルタイムデータ ID は「*_c_XXX」（登録したサブ看板でのみ使用できるリアルタイムデータ ID の場合は「*_s_XXX」）の形式で任意に設定できます。

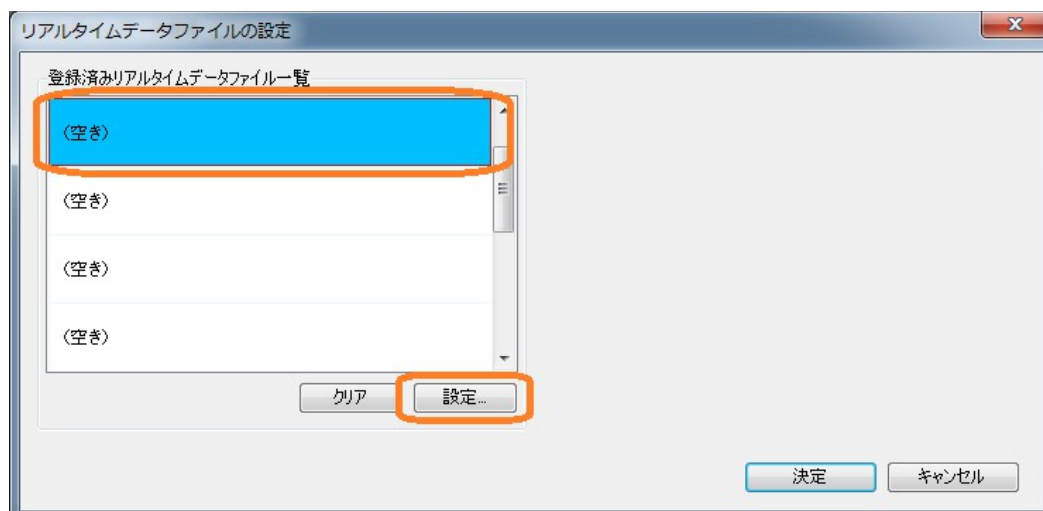
●CSV ファイルをリアルタイムデータとして登録する手順

(1) CSV ファイルをリアルタイムデータとして登録するには、メニューから「表示」→「リアルタイムデータ管理ウインドウ」をクリックします。

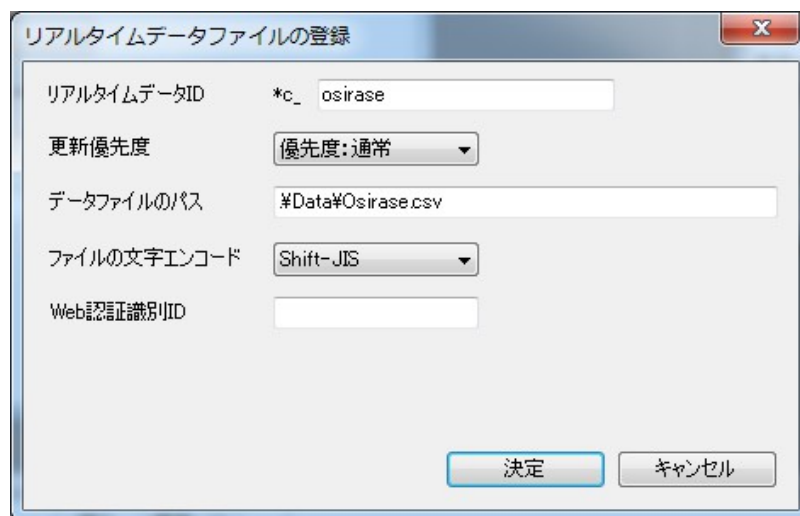
(2) 「リアルタイムデータ管理」ウインドウが開くので、「リアルタイムデータファイルの設定」ボタンをクリックします。



(3) 「登録済みリアルタイムデータファイル一覧」(サブ看板の編集のときは、「サブ看板の登録済みリアルタイムデータファイル一覧」) から、あいている項目を選択し、「設定」ボタンをクリックします。



(4) リアルタイムデータID と各設定項目を入力し、「決定」ボタンをクリックします。



リアルタイムデータファイルの登録

リアルタイムデータID *c_ osirase

更新優先度 優先度:通常

データファイルのパス #Data#Osirase.csv

ファイルの文字エンコード Shift-JIS

Web認証識別ID

決定 キャンセル

各部品へデータタグを記述する際、ここで設定したリアルタイムデータIDを使用することにより、データタグの管理が楽になります。

それぞれの入力項目については、P4「データタグについて」を参照してください。

リアルタイムデータ表示更新の設定

リアルタイムデータタグを使用したデータ表示更新の設定を行います。

この設定はパソコンごとに Nomoad、NomoadPR それぞれに対して行います。Nomoad での設定はプレビューのため、NomoadPR での設定はプレゼンテーションのために行います。

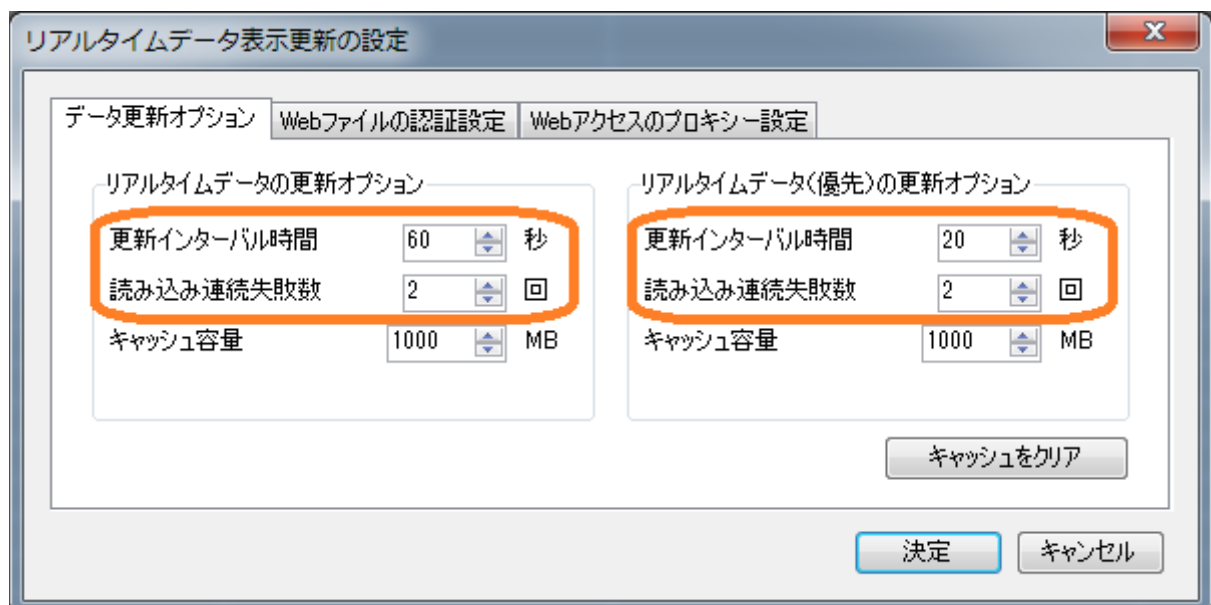
リアルタイムデータ表示更新の設定を行うには、

- ・ Nomoad の場合はメニューから「ツール」→「リアルタイム表示更新の設定」
- ・ NomoadPR の場合は、メニューから「設定」→「リアルタイム表示更新の設定」

をクリックします。

●データ更新オプションの設定

各データタグやリアルタイムデータの登録時に指定した更新優先度に応じた設定を行います。



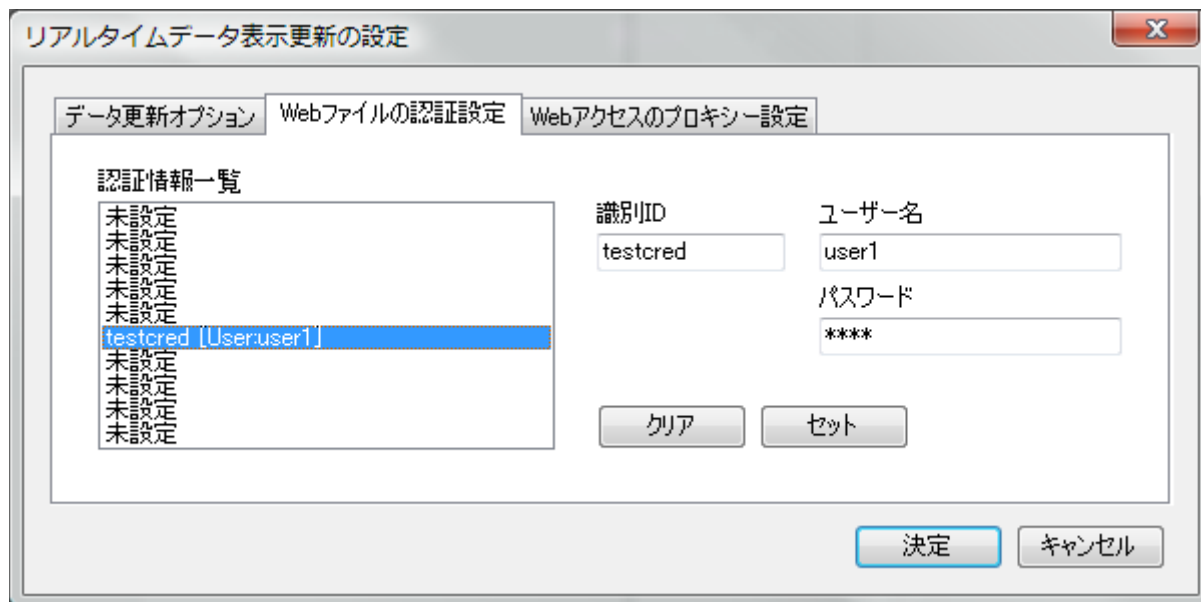
・更新インターバル時間…ファイルの更新確認の頻度を設定します。20～600 秒（優先設定では 2～300 秒）の間で指定できます。Web 上のファイルを使用する場合は、60 秒以上に設定してください。

・読み込み連続失敗数…ファイルの更新確認、読み込みにの失敗許容数です。-1 をセットすると常に失敗を許容します。設定した回数以上連続して失敗した場合は、エラー文字「 () 」 (カッコ) が表示されます。表示条件で設定してあるデータタグは“NONE”と同じ効果となります。

- ・キャッシュ容量…（使用しません）
- ・キャッシュをクリア…（使用しません）

●Web ファイルの認証設定

Web 上のファイルを使用するとき、認証を行う必要がある領域にアクセスする場合、ユーザー名とパスワードを設定する必要があります。認証方式は基本認証（ベーシック認証）のみに対応しています。



ユーザー名とパスワードを設定するには、

- ①一覧から設定したい識別 ID を選択します。
- ②新しい任意の識別 ID と、認証を行うためのユーザー名、パスワードを入力します。
- ③「セット」ボタンをクリックします。

ユーザー名とパスワードを削除したい時は、削除したい識別 ID を一覧から選択し、「クリア」ボタンをクリックします。

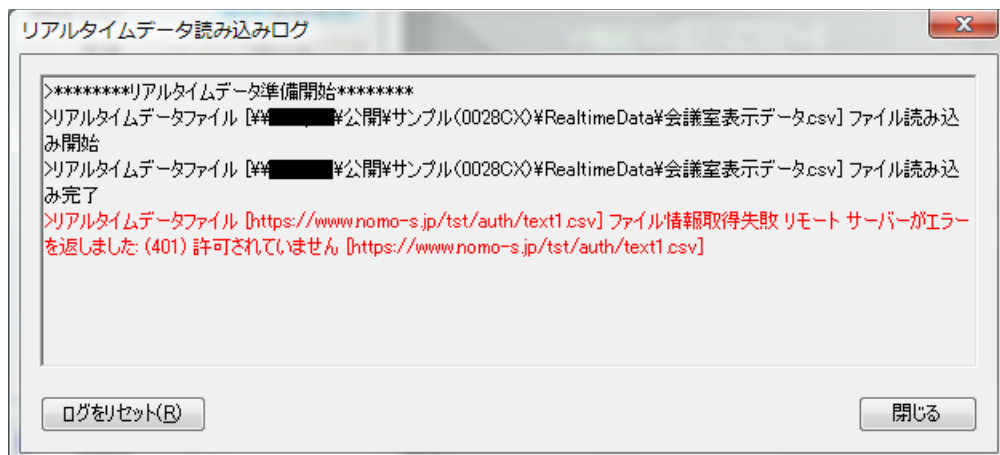
●Web アクセスのプロキシ設定

Web 上のファイルを使用するとき、プロキシの設定が必要となることがあります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

リアルタイムデータ読み込みログの表示

リアルタイムデータ読み込みログを表示することができます。

- ・Nomoad の場合はメニューから「表示」→「リアルタイムデータ読み込みログ」
 - ・NomoadPR の場合は、メニューから「プレゼンテーション」→「リアルタイムデータ読み込みログ」
- をクリックします。



●Microsoft、Excel は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。